



# 第 1329 回例会報告

平成25年8月 29 日(木) 晴

## 会長挨拶

会長 平山隆勇

## 老化現象

大分以前のことで、本日お迎えした沖野外輝夫先生のお話しの中にあつた「湖はやがては沼になり、湿原化していく」という言葉が大変深く印象に残っています。富栄養化と堆積物の蓄積による湖の老化現象ということだと思いますが、当時諏訪湖のアオコ発生を嘆き、透明で美しい湖になればいいなと漠然と思つてはいたものの、汚染の原因について、余り深く知らなかつた私は衝撃を受けました。諏訪湖は既に浅くなり、縮小した老年期の湖だったので。また、諏訪湖は多くの河川が流入しており、その流域面積は広大であるのに、流出河川は天竜川一本であり、富栄養化が急速に進行しやすいハンディキャップを元々背負つていたことも知りました。「老年期の諏訪湖を高山にある深い湖と同列に考へて、山紫水明の面影を求めること自体が幻想に等しい」という信大理学部諏訪湖臨湖実験所時代の文献にある記述も、老人が若者に返ることができないのと同様のことで、納得できました。

「老化」という現象が存在することは、生物においては当然の事実としてみんな知っています。私は職業上、高齢者の診療にあたる機会が多くあります。血圧や血糖そして血液中の脂質が高いなど、人は年とともに危険因子が増え、それらのハンディキャップはやがて血管の老化を引き起こし、脳卒中や心筋梗塞といった致命的な血管の病気を起こすことがみられます。それを免れることができた人でも、加齢に伴い、細胞分裂の際におこる「遺伝子にできた傷」の修復がうまくいかないこと

により、がんを発症する場合があります。人間も老化～死という運命を背負つており、今行つている生活指導や治療が、本当の意味で老化を防ぐことにつながるのだろうか、こんな考へが頭をよぎることがあります。いや、例え老化は防げなくても、一日でも長く健康な状態を維持するために、今の生活指導や治療は必要だと思ひ直すことを繰り返しながら、診療を続けているのが正直なところではあります。

諏訪湖も人間も老化という運命を変えることはできないかもしれませんが、老化に向かうスピードを落とすことはできる、少し前の状態に戻すことも可能だと思ひます。

諏訪湖の歴史は何万年と長いのに対し、私達

の一生は100年足らずで比較にはならないかもしれませんが、努力すればどちらも良い状態をより長く保てる可能性はあるはずで、多方面からの諏訪湖浄化の取り組みにより、諏訪湖は1970年代と比べれば明らかにきれいになりました。日本人の平均寿命も当時より10歳位伸びました。努力は報われるものだと思ひましょう。

### ■出席報告

会員数	36名
出席対象	33名
出席者数	26名
出席率	78.8%
前回修正	90.9%

### ■ニコニコBOX

24名	24,000円
累計	207,000円
目標額	130万円
達成率	15.9%

### ■今週のこゝろ

沖野先生本日はよろしくお願ひします。  
萩田均

### ■次回のプログラム

9月12日  
外部講師卓話例会  
薩摩市民新聞社社長  
雑誌・広報委員会



◇幹事報告◇

【連絡事項】

1. 国道142号線、9月30日清掃活動への参加要請がきています。希望者は幹事までご連絡ください。
2. 堺フェニックスロータリークラブとの船の贈呈式が8月31日行われます。

【受領文書】

諏訪RCからウィークリーが届きました

◇委員会報告◇

【社会奉仕委員会】

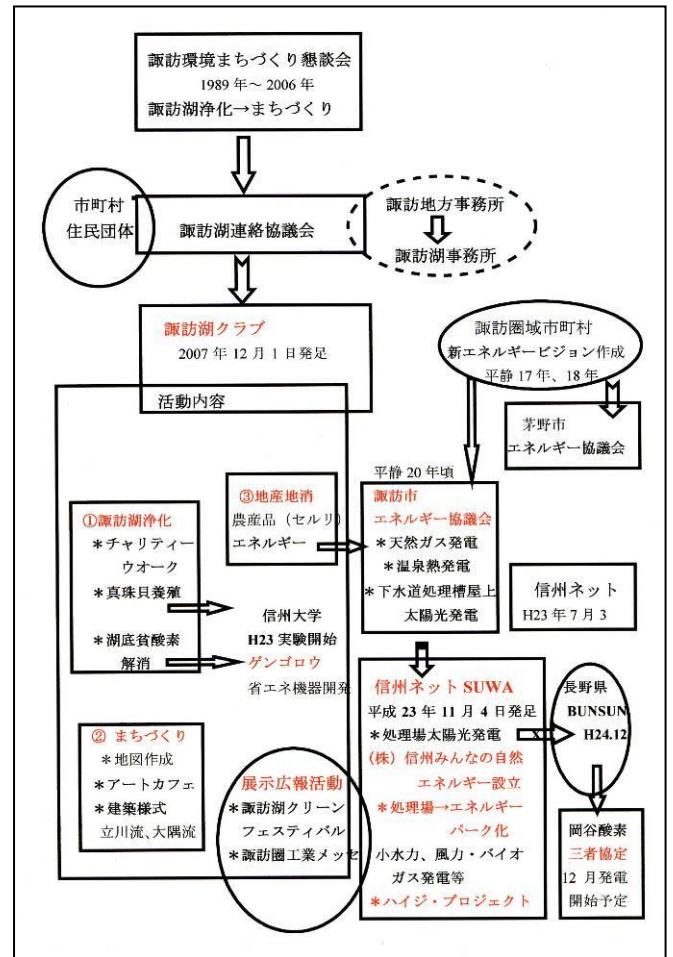
9月の諏訪湖清掃は「ガールスカウトとの協同作業」です。本日も申し込みを受け付けます。

【交際奉仕委員会】

ウィークリー記載の事項の詳しい説明がありました。

【青少年奉仕委員会】

「中学校の職場体験学習を応援します!!」というチラシが配布され、職場体験に応じてくれる企業の参加要請がされました。



堺フェニックス RC 船贈呈式

8月31日、堺フェニックスロータリークラブ10名の参加をと諏訪湖ロータリークラブ20名以上の参加のもと

1. 堺フェニックスより諏訪湖ロータリークラブへの船の贈呈式
  2. 諏訪湖ロータリークラブより「蘇る諏訪湖」への贈呈式が行われました。
- 夜のミニ花火大会を楽しみに参加していただきましたが、あいにくその時間には大雨となりました。詳しくは後日記事の少ない号の時に記載させていただきます。



1329 回例会

社会奉仕委員会

「諏訪湖クラブの現状」

沖野外輝雄元信大教授

沖野先生をお迎えして、卓話をいただきました。資料図のように、まちづくり懇談会から始まった諏訪湖浄化活動がまちづくりにつながっていくこと、そしてより発展し改善させていく過程が、理解できました。



私はまちづくり懇談会のシンポジウムにおいて、ドイツの景観、環境問題の解決策が大変印象に残っていたことでした。

諏訪湖クラブとのかかわりについても今後研究していきたいと思えます。沖野先生、本当にありがとうございました。